

## 専修大学外国語教育研究室・CALL 教室開設 50 周年記念行事について

外国語教育研究室室長 寺 尾 格

平成 26 年度は外国語教育研究室・CALL 教室の開設 50 周年にあたるので、記念行事の開催が外国語教育研究室的運営委員会で決まり、実行委員会（委員長：土屋昌明経済学部教授）が設置されて、事務室の田代佐貴さん、澤田美里さんの協力で準備が行われた。そして「大学の言語教育と国際化」のテーマでのシンポジウムが、平成 27 年 1 月 24 日（土）午後 1 時から、神田校舎の 542 教室にて開催された。

記念講演は、「人間—機械—言語—社会」のタイトルで、トマス・ピンチョンの全小説翻訳および NHK 英会話講師等々でも有名なアメリカ文学者の佐藤良明氏にお願いした。大学の言語教育の歴史を振り返りながら、「言語学習に学生を引き込むのは機械でもコンテンツでもなくて、教員の感化する力、人間力」であるとして、「CALL (Computer Assisted Language Learning)」ではなくて、むしろ HALL (Human Assisted Language Learning)」を提唱して、参加者の共感を呼んだ。

後半は仲道伸治氏（法学部非常勤講師・スペイン語担当）：「スペイン語のリレー授業—教員と学生のそれぞれの観点から」、次に杉本孝子氏（経済学部非常勤講師・英語担当）：「授業効果を高める CALL の使い方—リスニング・ライティング・リーディング授業から」、そして土屋昌明氏（中国語担当）：「科目としての『世界の言語と文化』」と、それぞれ三名の研究発表に続いて、活発な質疑応答が行われた。研究会出席は 52 名であった。研究会後には、地下 1 階のカフェにて、松木健一常務理事による乾杯の音頭で懇親会が始まり、元室長の大森洋子氏なども駆けつけていただき、終始なごやかに歓談が

続いた。

以下に出席者の感想の一部を紹介する。

- ・今後の言語教育のあり方に興味が湧きました。社会経済が進歩すると共に、その技術に伴った語学学習が主となっております。ex: 紙媒体→カセットテープ→CD等。現代はDVDやインターネットに付随した情報を用いた方法が挙げられると考えます。それが今後どうなっていくのか。佐藤先生がおっしゃっていたような「HALL」つまり「人」がコンピューターに代わりその役目を任うのか、そうであるのならばそれは例えば何になるのか、そして何よりそこにビジネスチャンスはあるのか、社会人側の観点から考えていこうと思います。
- ・この度の言語教育講演会に出席させていただきました、どうもありがとうございます。①寺尾先生の講演：神田校舎でも優れたLL・CALL教室をご整備いただき、とても感謝いたします。これからは積極的に施設を使わせていただけますように、自らからもチャンスを作りたく考えております。②佐藤先生の講演：Connected=Convenient=Loving！ Human－Assisted－Language－Labのために！ 外国語を身につけることは勉強の喜び感をくれるもの、人類社会における進化力に繋がる点から、学生に外国語勉強の必要性和楽しみを伝えてあげたく、改めて覚悟しました。③土屋先生の講演：英語だけで類推してはいけない、学生は何のために外国語を勉強するの？など、土屋先生の厳しい外国語教育における反省点が大変興味深く、よく考えなければと思っております。Question: 伝統的な文明へのノスタルジアや、流行や先進的な文化へのあこがれ、就職有利のような実用的な考え方などが全て失われつつあるとすれば、どのようにして、学生を中国語教育へホール Hall できますか？
- ・仲道先生ではリレー式の利点、欠点をはっきりわかった。学習者のレベル差を考慮して、テキストを決めるのは難しい。杉本先生では、ライティングの授業で使用可だとわかり、教室でパソコンを自由に使える様子が見えて、とても参考になった。1人ずつ点検できる機器が揃うとすばらしい。

手書きの画面が共有できる機材ができると、授業がしやすいはず。土屋先生では、言語のグローバル化は、言葉や文化の学習が第一である。実用面だけを目標とする外国語の授業に片寄っているような気がする。ある程度、基礎が出来なければ、応用がきかない。大学では広く言葉・文化をまず習得すべきだと思う。

- ・先生方が授業を行う際に、色んな事を考え研究しているのだと改めて感じました。私が在学時も LL 教室を利用した授業もありましたが、こんなに設備もそろっていなかった（もしくは、利用しきれていなかった）と思います。eラーニングで単語の学習ができたり、時代は進んでいるんですね…。卒業してから、もう 10 年経ちました。
- ・大変刺激を受けました。ありがとうございます。学生時代には LL 教室を利用した（有効に利用した）授業に出会わなかったのと、教室（のシステム）が使いにくかったために、LL 教育にあまり良い印象を持っておりませんでした。新システム導入等で使いやすくなるということでうらやましいです。
- ・私が語学の勉強をしていると、それを見た友人に「就職のためにやっているの？」と聞かれ、ちがうと思いながらも、うまく反論できないことが度々ありました。今回は、この自分のモヤモヤに対してタメになるお話が聞けて良かったです。杉本先生のお話にあったリスニングの授業を来年度、時間が合えば取ってみたいと思います。
- ・一年の授業が終わると、毎年このような授業で良かったのかと反省する点が多くあります。どのご発表も、私の疑問に答えていただける内容で興味深く拝聴しました。これまで CALL 教室を利用することを積極的に考えてきませんでしたが、基礎文法を学習した後の授業で利用してみても良いかと考えが変わりました。
- ・いろいろな先生方の取り組みを聞くことで、自分の授業をかえりみる良い機会になりました。来年度の授業に反映させることができればと思っています。

- ・他の語学の授業の実例について触れる機会がとても少ないのでとても貴重な時間でした。ありがとうございました。
- ・とても貴重なお時間でした。研究発表では、普段学ぶ立場であるので教える立場のお話や工夫はとても面白かったです。
- ・学生のため、佐藤良明先生のお話が深く理解することができなかったところもありますが、自分では考えられないような考えを聞けてとても面白かったです。もっと知識をつけて理解したいと知識欲を刺激させられるものでした。研究発表をされていた先生方のお話も、普段受けている講義の先生もいらっしゃったので、こう考えられて講義をされているのかとの目的が見えて、とても有意義なものでした。
- ・今年度、世界の言語と文化のフランス語を受講していたのですが、設置背景が分かり、自分にも実用性や試験のことを気にしすぎてしまうところがあったように感じました。世界の言語と文化では、他の外国語を勉強している人もいるため、外国語を学ぶというよりも教養や知識として見られるので、あまり試験を意識せずに勉強できたと思います。
- ・CALL 教室は学生にとって知られていない存在なので、1年次から基礎・構造の授業で、是非言語に興味をもつように、CALL 教室を必ず使うようにしてもらいたいと思います。